

産業建設常任委員会会議録

- 1 開会日時 令和7年3月6日(木) 午前10時0分
- 2 閉会日時 令和7年3月6日(木) 午後0時28分
- 3 会議場所 委員会室
- 4 出席委員
7番 保田 守君 9番 治徳 義明君 11番 金谷 文則君
13番 福木 京子君 14番 佐藤 武文君
- 5 欠席委員
なし
- 6 説明のために出席した者
市 長 友實 武則君 産業振興部長 是松 誠君
建設事業部長 桐谷 文昭君 産業振興部参与兼
商工観光課長 大崎 文裕君
建設事業部参与兼
総合政策部参与 岡本 和典君 建設課長 福圓 章浩君
上下水道課長 金島 正樹君 地域整備推進室長 森本 祐司君
- 7 事務局職員出席者
議会事務局長 原田 光治君 主 幹 青木 智彦君
- 8 協議事項 1) 令和7年3月議会臨時会提出予定議案について
2) その他

午前10時0分 開会

○委員長（金谷文則君） ただいまから産業建設常任委員会を開会いたします。

なお、報道関係者の委員会室内での撮影及び電子機器の使用を許可しておりますので御報告いたします。

初めに、友實市長より御挨拶をお願いいたします。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 本日は大変皆さんお忙しい中、産業建設常任委員会をお開きいただきまして誠にありがとうございます。また、さきの議会が2月28日に終了して間がないときに、この産業建設常任委員会をお開きいただきましたこと、甚だ御迷惑をおかけしていることに対しましてもおわびをしながら感謝を申し上げます。

なお、本日御報告並びに説明をさせていただきますものについては、令和6年度の補正予算（第9号）ということで説明をさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございました。

それでは、委員会に入りたいと思うんですが、素朴な話で、なぜ今日の委員会を開かなければいけなくなったかっていうことについて、きちんと説明が要ろうと思います。本来ならこの間の本会議で議会は終了と、それで皆さん選挙があるから早めに終わらそうということでやってきたものが、この産業建設常任委員会も開かなければならない、それからその後予算常任委員会も開かなければいけない、それから臨時議会を開かなきゃいけないというふうなことで、なぜそれをここでしなきゃいけなくなったかっていうのを執行部からきちんと説明をいただいて、それを私たちが産業建設常任委員会の中でのことをやっていくというのは御理解をいただきたいと思います。

さきの議会運営委員会の中で、委員長として私のほうが申し上げたことは、6日に臨時議会を開きたいということが議会運営委員会に示されて、そこで協議をされました。その中の日程というのが、議案が出された後すぐに休憩に入って、その後すぐ予算常任委員会をやって、その後採決、そういう予定を示された。それも、前回の議会の中で決まった繰越明許費についての修正のことについてだというお話だったので、その所管が産業建設常任委員会のものであるというふうなことをお聞きしましたものですから、産業建設常任委員会を開かずしてそれを予算常任委員会で一遍にやってしまうというような、無謀という言い方は失礼なんですけど、私たち産業建設常任委員会というものを忘れになっておられるんじゃないかなというふうに思ったものですから、私は産業建設常任委員会の中できちんと説明をしてほしいというお話を申し上げたんで、それにお応えをされてのことだろうと思うんですが、なぜ我々の所管

のところのものが最初から入らずに、それからまた再度こういうふうな話をしていく。それから、本来なら議会の中であったこと、それについては再議という手法を取られるのが一般的だろうと思うんですけど、そういうものがなされないまま臨時議会を開いて我々の委員会もやっていくということになったことについて、まず説明をいただいて、それから次のことへ進んでいきたいと思うので、ぜひ説明のほどお願いしたいと思います。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 委員長のおっしゃるとおりで、本当に御迷惑をおかけしてるということで、深く反省もしながら説明をさせていただきます。

まず、今回の採決をいただいて、この議決に異議がある場合には再議という形での前提でお願いするということが手続的には存在しております。我々といたしましては、この議決に異議を唱えるということは考えていないところでございます。この決定は受け止めながら、しかしながら、この中の案件について、ここに再度精査をさせていただきました。

この中には、既に工事に着手しているもの、その工事が3月31日までに完了する見込みが甚だ困難というものについて、これについてはその後の様々な問題を考えますと、これを今度は第9号の補正予算として、その部分に限定して審査をお願いするということに判断をさせていただいて、本日の産業建設常任委員会をお開きいただきまして担当常任委員会の御意見をお聞きするということにさせていただこうということで本日に至っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

今、市長がおっしゃられた、既に契約があったものとか、要は工事が完了しないからとか、そういうことについては、所管の委員会があって、事前にこういう工事が何月何日に契約をされて、工期が幾らでっていうことが全て報告もされて、皆さんが承認をしていることだろうと思うんです。それが、議会が終わった後、1日でそれを再度何かにつけなきゃいけないというふうなようになってきてること、これは私たちが何も知らないところの話です。契約があって、契約期間があって、それができそうにないから延ばす。うちの委員会で話があったのかどうか、これは皆さん後でお話を聞くとはいえますけど、本来工期っていうのは、契約をして、相手方がいて、何月何日までの工期ですよ、よろしいかって判を押すわけです。それを延長するわけですから、理由がないといけません。その理由が今までの委員会でも何も話がなくて、この間の議会の議決の後に急にそのことが出てきて、それで再度、今度の第9号にかけるという理屈が本当に通るのか。私たちの委員会としては、当然委員会の中でその議論をして、じゃあ例えば今回資料をつけてくださってますけど、山川建設と福起園土木の工事が2つあって、その金額と工期が示されてますけど、契約して、それから終わりはこの3月31日になってます。そして、延ばすんだったら、例えば建築だったら資材が入らないとか、土木でもあるかも

しませんが、何かの理由があつてこうなりますっていうことの説明をされないまま、急にぽんと降って湧いたようになって、なおかつ産業建設常任委員会をしないまま予算常任委員会にかけようかっていう、これは事務局が考えたのかどうか分かりませんが、そういうふうな手法で物事をやっていくような簡単な事業を私たちは所管しとるわけじゃないと思うんですよ。そこら辺の説明をもう少ししていただけますか。

だって工事期間が決まって、3月31日で向こうも判こを押してる、例えば相手方がいらっしやるんだったら、理由があつてのことでしょうから、それをこの委員会で話をしないまま、終わってからっていうようなことは考えられないんですよ。私、文句をつけとるわけではなくて、1つずつ解析していった中で、理屈が合わないんじゃないかなと思うんです。それで、この委員会を開くっていうことになるって、おかしいんじゃないかなって思うんですけど。市長、いかがですか、その辺のところは。皆さんに説明、皆さん多分同じような疑問じゃと思うんですけども。なぜ、されないのが急に湧いてきて、何の工事で、どうして繰越しをしなきゃいけないようになったんですか。

友實市長。

○市長（友實武則君） この工事の進捗状況を詳細に委員会のほうに御報告ができていなかったということについては、改めましておわびを申し上げます。今後、そういった重要な案件について、進捗状況を詳細にできるだけ御報告をさせていただきたいと思っております。

この2件の工事について、工程管理等については後ほど担当のほうから詳しく説明をさせていただきます。いずれにしても、繰越しをせざるを得ない状況でございまして、このあたりを御理解いただきたいということでございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○委員長（金谷文則君） 取りあえず先に進みたいと思いますので、今市長から説明をいただいたことについても、委員の皆様それぞれ御意見があらうかと思っておりますので、まずそのことをお聞きいたしましょうかね。どんなでしょうか。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 先ほど、市長のほうからこの件についての説明をするというようなお話があったんですけど、今までこの新拠点整備計画について、当委員会においていろいろな疑問点がたくさんある中で説明責任を果たしていただけてないということが今回の問題にも起因しているんじゃないかなと。要するに、今までの説明責任ができてない。その辺をきちっともう一度、私は整理をして説明をしていただきたい。そして、この問題についてどうであったかということについてやられたほうがいいんじゃないかなと。

今までの説明で十分であると私は思っておりません。そういうことの中で、きちっとした説明を私は求めたいというふうに思います。

○委員長（金谷文則君） 一応、皆さんの御意見を聞いてから前に進めたいと思います。

治徳委員。

○委員（治徳義明君） 委員長のほうから素朴な質問で構いませんということなので、ちょっと確認をさせてください。

立地適正化計画というのは、ざっくり言うたら地方が人口減少したり高齢化したり東京一極集中している。それって国だけの責任ではなくて各自治体が魅力ある町をつくってください、そうするんであれば規制緩和だとか財政支援をするということなんだろうと僕は理解してるんですけども。そういう中で、全国に1,750弱の自治体がありまして、その中で都市計画区域を持っているのが1,400弱だと思うんです。そのうちの半数が計画するなり検討中だと、こういうふうにお聞きしています。それで、ネットなんかでいろいろ検索してみますと、この立地適正化計画というのが10万人以下の町というのは非常になかなか厳しい、ハードルも高いですよというふうな専門家の御意見もたくさんある中で、私は約4万3,000人の町赤磐市が、ある面着実に進めているということは評価すべきだと、こういうふうに考えております。評価すべきだろうと思ってます。約4万3,000人の町がこういった立地適正化計画をしっかりとやっていこうということに対しては評価をしています。

その中で、道路の件だとか、今回修正案が繰越しに出まして重く受け止めてますけれども、そういった中で、なぜ新拠点構想、私、地区施設道路を市が造ることをきちっと話をすれば何の問題もないと思ってます。なぜ最初から新拠点構想に対するそういったきちっとした説明をしなかったのかという、それをすればよかったんじゃないかと思ってます。そして、うわさでコストコの話がどんどん出て、コストコのために造るのかと私らもいろいろお話を聞く中で、市民の方からコストコのためにするんかというふうなお話、全然僕は違うと思ってます。新拠点構想を赤磐市は進めているんで、そういったことをきちっとなぜ説明しなかったのか、それが混乱の元ではないかと考えてますけども、どのようにお考えなのか。意見としてでも結構です。

○委員長（金谷文則君） 保田委員。

今さっき市長のお話があったことについてお願いします。

○委員（保田 守君） この間の議会のときも、私は質問させてもろうたときに、今選挙の真ただ中です。それで、いろいろの人の意見を聞く機会があまりにも多いです。

その中で、私は最初の9月の予算に反対して、そのときはよしんばこれで、やり方としてはこういうやり方もあるのかなっていうふうに思って、あのときは賛成したんですけど、進めていく、みんなの意見を聞きよううちに、やっぱりどうしても拭い去れない部分の疑問点というのがあって、大きな工事をしようの中で、いろいろな質問をした部分がどうしても明確になってない。市長からの答弁もいただいておらんしというふうなことが。今日、これは説明してもろうて、あと、前段のことが終わったらまた聞きたい部分というのを聞かせてもらおうと思ってますんで。とにかく不明点があまりにも多かったんでということです。

○委員長（金谷文則君）　ありがとうございます。

福木副委員長。

○副委員長（福木京子君）　これは、とにかく昨年の9月議会に突然、産業建設常任委員会なんかにも説明せずに、民でやるというところに市道をこしらえると。もう本当に説明されてることとやっとなることが違うわけですね。

それから、そのときにこれに異議を唱えた議員もたくさんいますし、私もこれはおかしいということでやってます。それで、とにかく全体計画が分からないまま進もうとしていることに對して、物すごく異議があったわけです。9月に初めてコストコという名前も出されたんですけども、こういう大きなのが来たら、本当、交通渋滞、それから浸水問題、これは誰が考えても心配な問題も明らかなんですよ。だけど、そういうことに対する対策なんかも示されないままどんどん、何かなし崩し的に進めようとするそのやり方、これ本当、危険な状況がありました。それで、ちょうど選挙の前で、みんなにいろいろ意見を聞く機会がありました。それで、特にその地元の岩田や河本や立川や、あの辺りの人の声も聞きました。

その中で、やはりこれはあまりにも分からないまま、今言いましたように進んでるし、かえって大変なことになる。あそこが本当に低い中で、以前砂川の決壊もありますし、浸水対策なんかにしたら、あれは10年に1回のような、そんな説明で今資料を出された中で、現在はもう100年じゃなくて1,000年の長いスパンでどうなんかと。岡山県内の真備町の件があるでしょう。そういう分でも全国的な自治体はそこまで考えて対策を練ったりしてるわけです。

それから、交通渋滞については、道路関係がどうなるか全体が示さないまま進んでいってる。やっぱり、こういうやり方に対する批判というのが物すごく市民の間にありまして、やっぱりここは見直すべきじゃないかという声が圧倒的です。

それで、まちづくりの観点では、例えば山陽団地の中心部、桜が丘の中心も、2人の方がお話しされて、あそこをどうするかと、本当に何年も前から市民が願ってるようなことを後回しにして、そこへ新拠点の莫大なお金を使おうとする大型開発事業、こっちは待ってほしいと。やっぱりこういう声が圧倒的に、私が聞く中ではあります。

そういう納得するような資料が出されてない。そういう状況の中での修正動議が出されて、やっぱりそれは市民の声が反映した修正動議だったと思います。

○委員長（金谷文則君）　すみません、ちょっと何か、私がお聞きしたことと少し広がっていった形になるんですけど。結局今回この委員会を開くのは、前の委員会のときの反省として、市長のほうから説明をきちっとできてなかったことでこのような結果になったので説明をきちんとしますと、しなければならないということを議会運営委員会と言われてきたと思うんです。だから、じゃあお話を聞きましょうと、そしてみんなが理解をしてから前へ進みましょうっていう形での、私としては、この産業建設常任会の開催理由としているんですけど、市長もたしかそういう説明をされるという話だったので、皆さんも今までいろんな面で疑問があった

ことについて、今日は市長がお見えですので、そのことについて説明をしていく、お答えも、これも我々も選挙もあるというようなことで、その先はもうない、どうなるか分からないわけですから、きちっと聞いていかなきゃいけない。それをまずしてから次のところへ移らなきゃいけないと思うんです。

結局、さっきの民民といったのが急になったような話とか、なぜ今の地区指定ができた、できたんだけど、その中を、例えば開発公社のような形できちっと市のほうが土地を収用して、その後必要のように事業計画を持っていかなかったのか。事業計画をなぜこの議会の中で最初からもんでいかなかったのか。それから、トップセールスだって言われてコストコだとかナカシマという名前が挙がってるんですけど、途中でコストコのためのウエルカムの予算を使うんだというような発言があったり、それからその仲介業者としてのベストコーポレーションかな、その方がどんな会社なんですか、いろいろ皆さんが聞いている情報はあるけども、執行部から何らそれについての情報がなされていない。どんなことをその先、その会社がやるのか。それから、その会社がコストコとかそういう、来ようとしているというふうに市長がトップセールスをして私たちに情報提供されたところと、どういうつながりがあって、その裏づけはどうなのかとか。それから、今の渋滞対策、当然コストが来るということを前提に皆さんが話をされているにもかかわらず、来るということになれば渋滞のことについてももう少し考えていかなきゃいけないみたいな発言があったり、そういう問題は違ふと皆さんが言われてる。道がないと困るんじゃないか、渋滞するのに困るんじゃないか、市民生活に困るんじゃないか。じゃあ雇用は本当に間違いなくそういうふうなことができるのか。それも先方の都合で話ができませんというふうに来てるんですけど、それが先方の都合でできないものに、こんなにたくさんのお金をつぎ込んでいいんだろかっていう質問もずっとみんながしてて、それがきちんと説明されないまま来て、先方の都合ですから言えませんでは多分、もうこの事業についてはこの間の結論が出たように、何とかしてもう一遍原点に返って、きちっと最初から市民やら議会の理解を得て前に進めましょうっていうのがこの間の結論だった。それについて、きちんと今までの疑問について市長が説明をしてくださるというのが今日の会議だと思うんです。

だけど、普通に考えて、今まで何年という形で議論をしてきたものが一遍に、じゃあ話してもらえらんだったらなぜ今まで話さなかったのかっていうようなことになるんじゃないかなって、私、素朴に思ってるんです。ここで本当にそれが説明できるのか、市長が話していただけるのか。市長が話していただいたことは、これ公として、メディアも来てらっしゃるんだから、きちっと正確にメディアも委員会で議論してることを報道しないと、例えば市長から聞いたことだけが新聞に載ってしまったりして今まできてるように思えます。

そういうふうな報道があったんでは、やっぱり公平性が欠けてると思いますし、いいことはいいって、僕はやればいいと思うんです。だけど、疑問は疑問できちっと答えて前に進めてもらわないと、皆さんは困ると思うんです。ただ、今うわさされてる企業に来てもらえばいい、

少々お金のことは関係ない、手順は関係ない、ただ来ればいいっていうことを言ってる議員もいます。それはそういう考えもあるかと思いますが、ここは委員会として産業建設に所管したことについてはきちっとしていきたいなと思うんで、そのことについて、多分今皆さん方が説明を尽くされてないって言われたことはそのことだと思うんで、きちんとその説明を求めて、それから行かせていただいたらどうでしょうか。疑問があるまま、例えば今日何か提案されていることを聞きますか。

執行部もこういうふうにしてほしいということがあろうかと思うんですけど、予定としては1日しかないんで、意義のある委員会をしないと、傍聴の方も来ていただいているし、注目されていることですので。金額的なことについてはもう予算常任委員会ではできないとなれば、やっぱり事業についてここで議論をするしかないと思うんですが、どうでしょうか。今保田委員からは、提案されたことをやってから話を聞こうかっていうようなこともあったんですけど、どうでしょうか。

○委員（佐藤武文君） 過去の説明を。

○委員長（金谷文則君） 過去の説明を……。

○委員（佐藤武文君） まだいろいろ解明されてないんで。

○委員長（金谷文則君） お聞きするということでよろしいでしょうか。

○委員（治徳義明君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 治徳委員。

○委員（治徳義明君） 一般質問であるとかまちづくり調査特別委員会であるとか所管の委員会であるとか予算常任委員会の中で、いろいろ疑問を、質疑等もあって、その上で説明不足だと言われるので今修正かかっているんでしょうから、今回の提案を一度お聞きしたほうが……。

○委員長（金谷文則君） 今までの話をね。

それでよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） それじゃあ、説明ができてないと思われることについて説明をお願いしたいと思います。

友實市長。

○市長（友實武則君） ちょっとここで、これから説明をさせていただくものについての筋立てを提案させていただきます。

まず、この新拠点整備についての、どういう役割を持っていくか、どういう目的で新拠点をこの都市計画上位置づけてきたのか、あるいはその中に施設内の道路の配置、そういったものもあろうかと思いますが、これについては立地適正化計画をこれまで、この常任委員会にも説明してまいりました。そのところをまた繰り返すというのも……。

○委員長（金谷文則君） それは要らないです。

○市長（友實武則君）　　ですよね。

○委員長（金谷文則君）　　はい。

ちょっと私、口を挟むようですけど、素朴なものとするば、なぜ今まで、民民っていうようなことからのスタートがあって、この委員会としてなぜやらなかったのかということがあったり、それから心配してるのはベストコーポレーションという会社が中間に立ってやられとる。本当にそこが赤磐市民が安心してやっていける業者なのか、そこを市長から説明がいただけないということもあったり、それから道路の、先ほどの話もあるんですけど、最初からなぜそういうものを計画してそこをやっていくということが説明されないままやってきたのかとか、それから業者のことも、急に業者が決まってる話になってきてしまってることとか、言い出したら切りがない話なんですけど、そんなことが一番気になってるんで……。

○市長（友實武則君）　　分かりました。

○委員長（金谷文則君）　　それをお願いします。

○市長（友實武則君）　　私もぐっと原点に戻って立地適正化計画を説明するのはこの場で適切ではないというふうに思いながら発言させていただきました。そういうことであれば、特に先般、本会議の中で、討論で不明確ということを言われました。主に3項目あったと思うんですけども、1つは道路、岩田長尾線及び岩田長尾線の支線、この市道としての性格あるいは位置づけ、これが曖昧ではなかろうかということが第1点。

それから、第2点としては、この事業の進め方の中で、民間企業の、今では2社、それからもう一社が先ほど名前も出てきましたベストコーポレーションという会社の役割、そういったものが不明確だということも御指摘がありました。

それから、もう一点としては、この修正をいただいた影響について、特に請負契約のある工事について、その相手方との損害賠償請求を受ける可能性があるとか、そういったものについて明確にしてほしいということで3点、特に不明確な部分を明確にしてほしいということがありましたんで……。

○委員長（金谷文則君）　　市長、口を挟むようですが、この委員会の関係がメインですので、本会議とか予算常任委員会は、それはそれとしていただいて、今までこの委員会の中で疑問視をされてることで、補償の問題だとか違約がどうのなんていう話はやってませんので、私たちのところは今の素朴な疑問で、今の仲介をしてくださる業者は本当に与信が取れてるのか、与信を皆さんから、私たちが調べたところの問題と執行部からの御意見に完全な相違があるんじゃないかなっていう辺があって心配して、任せられるんだろうか、今進めてるやり方がいいんだろうかっていうようなことがここで何回も議論されてたと思うんです。それを明確に説明してもらわなきゃいけない。それと、なぜその業者になってしまったのかとか、公のお金を使っていく以上はいろんなことは公平に物を進めていかなきゃいけないというのがここで皆一致した意見なんですよ。

それが、どうも見てると、決まってしまってから報告がここに出てきたとか、そういうふうなことになるので、そこら辺が皆さん疑問に思っておられる一つなんです。それをちゃんと説明をしてください。担当の部長の皆さん方、それから担当の課長のほうはあずかり知らないという言い方は失礼かもしれないけど、それは分からないっていう答えしか来てないんですよ。今まで分からないっていうふうに答弁をされていることについてきちっと説明が欲しいというのが、今皆さんが言われてることなんです。分からないっていうことを言われてることは何を言われてるかは御存じでしょうか。把握をされてますか。

それでいいんですよ。だから、本会議で言われたことっていうのは予算のことについての修正のことですけど、うちは原点というか、基本的に今の結論を出す、何を出すにしても分からないことがたくさんあり過ぎる。それを何とか解明してください、そしたらよく分かるじゃないですかっていう話なんですよ。それを教えてください。ただ、素朴な話だと思います。

今、例えば工事がどうのっていうのはその次の話で、これはもう入札をしたんだったら、それは入札したわけですからそれはええんですよ。その補償とかなんとかというのはまたそのときに、例えばストップしたらこうなるよという議論のときにしていただければ結構なんですけど、前々からやってること、それから前も、前回の定例会中の委員会で、12月議会からの積み残しでこんな質問がありますよっていうのを一遍質問を投げかけて、ざっと一遍に、簡単に終わってますけど、そこできちっと解明されているわけではない部分というのが、今僕が繰り返し何回も言っているようなところの辺がちゃんと解明されてないですよ、それについてお答えをいただきたいということなんです。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 今の委員長の御指摘によりますと、特にこの開発に当たっての各社、とりわけベストコーポレーションなる企業がどういう役割を果たすのか、それと赤磐市との関係、それからこの先の事業の進捗についてお任せをしいいかどうかっていうような意味の御指摘だったと思います。

これについては、まず本日説明できるようにと思って資料も用意をさせていただいております。この新拠点の概念図もしくは手続の流れという資料、1枚紙が用意されておりますけども、この中を見ていただければ進出してくる企業の役割、それから開発事業者と書いておりますけども、この企業の役割、これが御指摘のベストコーポレーションの役割、それから赤磐市の役割、そういった関係を分かりやすいように模式図的に表しております、それぞれの市との関係……。

○委員長（金谷文則君） 市長、そういうことじゃなくて、今言ってるのは、なぜその会社なのかとか、なぜ今の、例えばコストコになってしまったのかっていうところにだんだん結びついて、なぜそのベストコーポレーションというところに決めたのかとかというようなところが

皆さん分かってないんですよ。それがどうして決められるのか。

それから、個人的と言うちゃ失礼なんだけど、一企業のために何か一生懸命市のほうが仕事をしてるんじゃないかっていうようなことが世間の中で言われてて、今の私たちのところに説明をされてないからそうなんかもしれないという疑問があるからそこを答えてほしいって言うてるわけで、例えば土地を買うとか買わないとかというのは民間のことだって言われとんですけど、当然その民間がやるんであれば民間がやる仕事、それから官がやらなきゃいけないんだったら官がやらなきゃいけない仕事っていうのが本当に明確にきちっと皆さんのところで説明ができていないっていったら、そうじゃないような気がします。どこかで何か絡みがあつて。

そこら辺のところの業者がなぜそこに決まったのかという辺のところが分からないですよ。それでいいのかなと。それで、いろいろ聞くと、まだおっしゃられてないけど、かなりその関係する方からああせえこうせえというような話が出ているような話も聞きます。それから、もうコストコは来ません、それは道路ができてないから来ませんというような話を私も耳に何か所からするようなことが今出てきているわけですよ。そこに結びついてくる。

それをきちっと最初から話をして、なぜその業者で、なぜ黙ってきたのかというところからの説明をしてくださいというのをずっと、今佐藤委員も皆さんもそのことを言ってるわけですよ。そこからですよ。

今日は、次の予算常任委員会があつて臨時議会をやるんで、1つやらなきゃいけないのが協議事項として、臨時議会に係るものが提出される予定議案が何なのかっていうことが1番の委員会ですから、それをいつやるか分からないようなところでやってもしょうがないんですけど、それよりも先に今の話を解明するっていう時間的なものができるかどうか、できなかったらそこまで進まないんですよ、今日。分かりますか。だから、まずその辺お答えをいただきたい。

友實市長。

○市長（友實武則君） 分かりました。

経過、特に企業の決定といいますか、特にコストコとナカシマ、これが決定というところに、現状では最終決定ということではありませんけども、なぜここまで進んできたのかっていうことの説明が必要、またその中にベストコーポレーションという開発を担当する企業が入ってきているのがどういう経緯かということでございますので、この辺を説明させていただきます。

まず、コストコですけども、これは当社が岡山県内に新店を目指しているというのは随分前からうわさとして耳にしておりました。そういう中で、赤磐市を候補地として選定してほしいということを恐らく、記憶は定かじゃないんですけども、随分前、10年ぐらい前だったと思いますけどもコストコのほうへ候補地の一つとして加えてほしいというお願いに上がっております。そういう中で、当初は全くそのつもりも予定もないということで、非常に赤磐市への可能

性を示唆する発言はいただけなかったわけでございますけども、企業誘致の運動として何年も続けてきた次第です。

そして、何回も協議をする中で、当社が赤磐市のほうへ少し関心を持っていただくようになり、また関心が出店意向を示してくるというようなことに切り替わってきました。そういった中で、岡山市あるいは倉敷市等の出店実現が希薄になってきたところから赤磐市出店の意向が強くなってきたということでございます。

そして、もう一つのナカシマホールディングスの会社、これももう少し手前の話になるんですけども、上道にあります工場をどこか県内の土地が確保できる場所を探しているんだということを聞きまして、これは対象としてるのは赤磐市もそうですけども、近いところ、今お勤めいただいている従業員が通いやすいところということで、赤磐市、瀬戸内市、備前市、そういったところを探しているということを聞きつけて、私もこれも社長等にお会いをして、候補地の一つに加えてほしいという協議をするところから始まっておりまして、これがこの新拠点構想も都市計画を目指しているという話の中で、前向きに検討していただくようになったという経緯でございます。

その経緯の中で、特にコストコは岡山県にそういった窓口がございません。そういう中で、どうしても協議に時間もかかる、顔と顔を合わせた協議も簡単にはできない。そういったところから、コストコのほうにどなたか窓口なるものを設定してもらえんだろうかという願いをして、そこに現れたのがベストコーポレーションということで、我々の協議の窓口として役割を果たしていただいたということでございます。その後、この2社とベストコーポレーションが何らかの契約と申しますか、約束事を交わしながら、この地区の土地を取りまとめるあるいは買収の手配をする、そういったことを役割として果たしてきているということでございます。

そういう中で、市としても、この新拠点の整備については赤磐市も公共ゾーンについて、赤磐市の事業として手がけていくわけでございますので、その辺がうまく連携しながら進んでいくことを我々も望んでおりますので、協議をお互いにさせていただいてきたということでございます。

その中で、それぞれの役割、それから特に赤磐市とそれぞれの企業の関係性といいますか、役割分担について分かりやすくするために、先ほど申しました資料を添付させていただいております。

○委員長（金谷文則君）　ありがとうございます。

聞いているのは、ベストコーポレーションでどんな会社ですかって、みんなそれを心配してるんです。調べましたよ、当然こっちは。ただ、その説明がされないからみんな心配しとるんです。それはいいんですよ、ブローカーの方が入ってやってくださるのはいいって皆さん、誰もそんなことについて言ってるじゃない。

それから、今の話でやってるのが、いつ頃からそのベストコーポレーションがそういうものを受けて赤磐市の中で動いておられるのか。特に土地は12月20日以降じゃないと、当然農地ですから、それについての売り買い、それから売買の約束、そんなことができるのかどうか、もしそれ以前に物ができているというような話になったりすると、この間の大黒天物産の話にあったように、全くコンプライアンス違反、決められたことが守られてない会社という話になるうかと思うんですけど。

ちまたで聞くと、ずっと前から、その12月20日以前からいろんなことを動いておられて、何軒あるところの農家のところを何軒こうやってやってるとか、まとめたとかというような話が私たちの耳に入ってきてる。そういうふうな中で私たちが心配してるんですよ。その会社が、ここでいい悪いというわけじゃなくて、きちんと、例えば公の何十億円ってお金をつぎ込もうとしてるところの企業と市をつないでくれる重要な会社として本当にそれでいい、こういうことだから大丈夫な会社だから安心してそこと付き合いましょう。幾らコストコが言ったから、ナカシマが言ったから、赤磐市として、うちの決められた規範の中でそれが受け入れられるのかどうなのかっていう検討をきちっとされたのかどうかとか、そういうふうな話がみんな、前からここでもそんな心配をされて、一般質問でもされてる人がいた。その説明をしてほしいって今のお話をしてるんで、今の概念ではないんです。

友實市長。

○市長（友實武則君） このベストコーポレーションとの関係性といいますか、そのスタートといいますと、今から5年ほど過去になりますけども、赤磐市が都市計画の手続を進めていくというときに、この都市計画を定めるに当たりましては地権者同意というのがどうしても必要です。そういった中で、この民間企業が進出してくるということで、その農地を、農地でなくなったとき、転用がなされたとき、そういったときに限って企業の進出あるいは都市計画の変更、こういったものに同意をいただけないでしょうかという地権者中心の説明会をさせていただきました。そういう中で、同時にベストコーポレーションという企業が各地権者を回って、都市計画の決定を条件に同意をいただいて歩いたということも我々伺っております。これについては、都市計画の手続に必要な件数を満足しておりました。その結果によって、我々も都市計画決定の資料として、地権者同意というものを提出させていただいております。

そういったことで、この企業が都市計画においても、ある意味役を果たしてくれているということでございます。また、現状でも詳細ではないんですけども、地権者の全員の同意を得ているということが、このベストコーポレーションの現在の成果だと思っております。

以上です。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

絶対触れられないっていうか、ベストコーポレーションってどんな会社ですかっていうことについては全く触れて説明をされないんです。ということと、それから市長のほうが一番ベストコ

コーポレーションとは5年前とか言いますが、ほかのいろんなところから話を聞く中では、市長が前職のときからお付き合いがあったというふうな話も耳に入ってきたりしてる。そんなことがあって、ひょっとしたら内々に市長からそんな話が行ってるんじゃないかというふうなうわさも入っていたりしてるので、そこがそんなことはないということもきちっとしとかなければいけないと思います。

そのためにも、そのベストコーポレーションというのがどんな会社ですかという説明をいただかないと、それから5年前からそうやって地区計画をうちが張って、その中で回っておられるって、地区計画の説明をして、そのエリアについてということは、当然市とベストコーポレーションが一緒になって協議をしながらじゃないと、その地区計画を張って国やら県に出していくことにはならないと思うんで、何とかと聞いておりますみたいな話じゃなくて、一緒にどっぴりつかってやっとならしたんじゃないでしょうか。今の説明を聞いてたら、今素朴に私は思います。

だから、ちょっと違うんじゃないのかな。1社のために何かやってきてるんじゃないかなみたいに今のニュアンスも聞くし、ベストコーポレーションって、うちの市として、企業をどうのこうの言うわけじゃなくて、きちっと裏づけを取られて、うちも公の金を使ってやるわけですから、そこら辺がきちっとされてるかどうかということも、先ほどから何回もお聞きをしているので、そのベストコーポレーションがどうのっていうことを言ってるわけではなくて、相手として市が公のお金を使ってやる時に大丈夫なんですか、その裏づけはどうやったんですかということを知りたいんです。

それから、市長のお付き合いも、それは多分5年前じゃないときから付き合いをしているという話をよそのほうからも聞いたりもしておりますし、この間に変な話で、どこかで食事をされたみたいな話が降って湧いたような話で、誤解が生じたらいけないと思うんですよ。だから、そこら辺はきちっと説明をしていただいて前へ進めていただかないと、特定の企業のために便宜を図ったみたいなことになったら、これ大変なことだと思うんです。それを市が、それから市議会も含めて応援をしているということになると、とんでもない話だと思うんですよ。

だから、そういう疑念がどんどん耳に入ってくるんで皆さんが心配しんですよ。公ですからね。そのことについてのお答えをいただいて前に進みたいと思うんですけど。あとは皆さんそれぞれお聞きいただければいい。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 友實市長。

○市長（友實武則君） まず、今のお話の中で、私とそのベストコーポレーションとの関係性ですけど、市長に就任する以前からの付き合いがあるんじゃないかということですけども、正直言って付き合いはございません。

ただ、岡山市のことですから詳しくは言いませんけども、ある地区で開発計画があった。そ

のときに、その土地を取りまとめたりする会社がベストコーポレーションが関係する企業だったというふうなことを私は後で知ったんですけども、その折に、私も岡山市のそういった部門のある権限を持ったポジションを務めさせていただいて、協議もさせていただきました。その中で、その開発は都市計画の趣旨に従っていない計画だったのでお断りをするということで終わっております。実現しておりません。そういうときに、そのベストコーポレーションと直接やり取りをしたかどうかというのは、正直言って過ぎていますんで覚えておりません。そういったことで、昔の関係性というのは利害を持った関係ではありません。それから、与えられた業務の中で窓口としてお話をしたという程度のものでございます。

○委員長（金谷文則君）　ありがとうございました。

○市長（友實武則君）　それから……。

○委員長（金谷文則君）　そこで一緒に聞いたのは、何かエイトコンサルの中山さんという人が出入りされとんのですか、ここに。何かそこら辺も昔関係があったんじゃないかっていうことを言ってこられた方があるんですけど、それももう全く関係ないですね。エイトコンサルって何かあるのですか、今の事業の関係。

○市長（友實武則君）　委員長。

○委員長（金谷文則君）　友實市長。

○市長（友實武則君）　これも、中山氏は元岡山県の職員で、退職時には都市局長という、岡山県でも幹部の席を務めておられまして、中山局長のときに、この地区計画、都市計画について様々御相談もさせていただいた、また御指導もいただいたという関係で、この方が退職後、正式な社名が出てこないんでエイトコンサルと言わせていただきますが、そこにお勤めいただいて、赤磐市がエイトコンサルに発注してる業務、これのアドバイザーとしてエイトコンサルの業務として赤磐市に入ってきております。

○委員長（金谷文則君）　そのエイトコンサル、中山氏とベストコーポレーションとは別に関係はないということなんですか。一緒に何かしとられるのですか。今は関係ないのか。

友實市長。

○市長（友實武則君）　詳しくは存じておりませんが、ベストコーポレーションからエイトコンサルに、例えば開発申請のための図面を作成するとか、そういった業務の受委託の関係があるんじゃないかというふうに認識してます。

○委員長（金谷文則君）　分かりました。ありがとうございました。

私ばかりしゃべってもいかんので、ほかの委員の皆さんから。

○委員（保田　守君）　委員長。

○委員長（金谷文則君）　保田委員。

○委員（保田　守君）　私もベストコーポレーションのことで。

最初に接触してこんだけのことをお世話になろうと思うたときに、向こうからも声がかかっ

とるときに、ある程度行政というものを向こうは信用して話をするだろうし、こっちはベストコーポレーションの中身という分やこうは、やり取りする前に調べたんでしょうか。その業務の状況じゃ、実績じゃというものを市は分析して、この相手なら頼んでもいい、そこはやっぱり慎重になると思うんですよ。大層な横文字を並べとるからというだけの話じゃいかんことじゃから、その会社がどんだけの、要するに資本金があつてどんだけの人間を抱えてやりようの実績なんか、そういうものが全部必要にはなってくとは思うんじゃけど。仮に、こんだけの工事でかかっていくとすれば、その土地の買収にしても、僕らがふっと考えたら、こんな規模の会社で用地買収のお金やこうの段取りが全部つくんだらうか、もしくは銀行の大きいところが後ろへついつとって融資等をしてくれるという話になれば物事が動いていくと思うけど、二、三人のブローカーが動くだけの会社で、いざ基本的なことになってきたらどっかでお金を回さなきゃおえんということが、もう市民の皆さんにきちっと必要な査定の金額が渡るんなら私は心配、懸念も一つ取れるんじゃけど、一番大事なところでお金がスムーズに渡らなんだりとかというふうなことになる時には、民民でやるというて言ようたこの大きな市政の過ちというんか、あるんじゃないいかなと今ふと思うんです。今からでもそういうベストコーポレーションイコール健全かというような説明ができるかなと思う。その辺をクリアせんと、やっぱり前へ進ませるのは難しいなと。

だから、極端に言うたら、ここできっちりした流れまで書いとるんじゃけど、これももうやり替えて、誰が見てもこれなら大丈夫という形で進めにゃおえんかもしれんと、今ふと私はそう思うてます。だから、そこまでの、市長にいつも聞いたのは、この会社がそこまで任せていい健全な会社なんかということなんです。うちとしたら、最初に相手方の事業実績、そこら辺をきちっと分析して手を組む、協定なら協定を結んで始めていくというんがベストじゃないかと思うんですけど、そういう誰かの紹介で何か知つとるというだけの話でこの大きな仕事の中へ入って行って切り盛りするというのは、どうもスタートが間違ふとるように私は思います。

○委員長（金谷文則君） どうですか。結局、赤磐市が主体なので、業者の都合で何かをするということじゃないじゃないかっていうことでしょう。

市長、いかがでしょうか。

友實市長。

○市長（友實武則君） 先ほども説明させていただいたんですけども、このベストコーポレーションという会社が私たちのところに現れたと言うたら表現がおかしいですが、これは先ほども言いましたが、コストコあるいはナカシマホールディングスに、ナカシマは近くですから協議しやすいです。コストコが、やはり会社の方針等もありますし、これをつなぐ、窓口なる方を配置してほしいという求めに応じて、その企業がこの方を窓口にということで話が進んでいる。スタートはそこです。なので、その折に市のほうが、いやこの会社は替えてくれということが言えるような状況ではなかったと私は今でも思っています。

それから、その後に、やはり都市計画の手続を進めていく中で、地域の同意を取るあるいはその後に都市計画、12月以降ですけれども、地権者の売買等に関する同意を全件取ってこられました。こういったことが、この会社が我々のこれから事業を進めていく中で重要な役割を果たす会社であるということには違いないと思っているところでございます。

○委員長（金谷文則君） 保田委員。

○委員（保田 守君） そしたら、それだけでパートナーとして一番なんじゃという、決めたと僕は取ったんですけど、やっぱりそのときにもうちょっとすべきことがあって、後まで禍根を残すようなことになった始まりじゃないかと思うんですよ。素直にそういうところは認めてほしいですね。そんなふうに思います。

企業にはいろんなところがあると思うんです。じゃからやることがあったと思うし、それから皆さんの同意書を取るとか、それはどこの企業でもすることじゃないですか、こんだけのことをしていく中で。そりゃあ、要するに機嫌取りで先にやったような感じがするんですけどね。それはどこの企業だって同意書を取って、そういう形でうちが工事をしようと思うたらそういう形にはなっていくんだと思うけど。市が進めていく最初の形がやっぱり間違うとったと僕は思ってます、今でも。

○副委員長（福木京子君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 福木副委員長。

○副委員長（福木京子君） 私も、保田委員の言われることがそのままだと思います。

コストコ優位じゃないですか。コストコの言うまま市が従うような感じで。それでは、そんな契約をしたらもう、向こうのペースで行ってしまいますよ。

それから、この開発は複雑なんですよ。公共ゾーン、そして民民、しかし民民に合わせるような公共事業をしようと、公共ゾーンをしようと、連携をして。こんなうまくいくことはないと思います。やっぱり最初の出発がおかしいし、それから、最初やっぱり覚書とか協定とかきちっと結んで動かないと、そんなことでは絶対いけないと思います。ちょっと意見を述べておきます。

○委員長（金谷文則君） 意見というか、それは何で結ばなかったのかってことですか。

○副委員長（福木京子君） そうそう。

○委員長（金谷文則君） いいですか、質問じゃなくて。

○副委員長（福木京子君） そのところがどうなのでしょう。

この本当、公共ゾーンと、それからまた民民と。そして、議会には公共ゾーンのことしか説明がないんですよ。民民がどうしてるかという説明もされない。これは民でやることですから説明しませんという。それなのに、去年の9月に市道を造る。これまでの説明がおかしいわけですよ。やっぱり最初の出発がおかしいと。そもそも協定書をなぜ結ばなかったんですか、こんな大きな開発。そこをお聞きします。

○委員長（金谷文則君） 答弁をお願いします。

友實市長。

○市長（友實武則君） おっしゃることは分かります。

まず第1に、2社の企業から見たときに、都市計画の手続を踏んでいるところで、これが決定されるかどうかというのは、この都市計画が困難な手続であるというのを認識の上で、その結果を見守っていたというのが一つあります。

それから、その結果が12月20日に出たわけなんですけども、それ以降、この結果を受けてそれぞれの会社が意思決定を行うためのそれぞれの会社の手続等を踏んでいるということで、最終的な意思決定がなされたという段階に現在なっていないことから、協定等を結ぶということに至っていない、そういう状況です。

○副委員長（福木京子君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 福木副委員長。

○副委員長（福木京子君） それはそれでももう5年も前というんかもっと前からそうやって動いて、それを今目指して動いているわけですから。だから、それは決定されないから協定を結べないというような、それは筋が通らないし、既にそれを見越して、もう数年前から動いているわけでしょう。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 先ほども言いましたけども、この都市計画の定めをするのは非常に困難な手続です。岡山県もこれについて非常に努力をしてくださったわけなんですけども、やっぱり最終的な告示がなされるまでは、これが正となるか否となるかというのは分からない状況ですので、この行方を両者とも見守っていたということは確かだと思います。

現に、この規模の都市計画、赤磐市にとっても都市計画が施行された昭和40年代だったと思うんですけども、それ以降、この規模の変更は一度もできておりません。そういった状況の中で、見切りでこれは決定されるだろうという前提で、この著名な会社が覚書等を締結するようなことは考えれんということはあるかと思いますが。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

今ちょっと話の途中なんですけど、都市計画の変更が決定された、これがオーケーになってきた、そのオーケーになった要因、理由って何なんですかね。何だと理解をされていらっしゃるんですかね。今の会社が、例えばコストコとナカシマホールディングスが来るという、そういう話があったから都市計画が認められたのか。それは関係なくて、事業計画がよかったからあそこへ、例えば大規模商業施設を入れるんだとか産業振興ゾーンだとかってというようなことを計画したことがよかったのか。後のまちづくりにここをこういうふうやってつくるからいいというのが評価されて決定されたのか。それ、どのように把握をされてるんですか。

友實市長。

○市長（友實武則君） 都市計画に、具体的にこの企業がここに配置されるんで市街化区域に編入しようという考えは一切ございません。この線引きの見直しの中には、この新拠点ゾーンの役割を赤磐市の人口動向、それから産業、経済、交通、こういったことを見て、その赤磐市の土地利用がそういった10年、20年後のまちづくりに有効か、あるいはそうでないかという判断をしながら都市計画を定めていくわけでございます。

○委員長（金谷文則君） 分かりました。そのように認識してます。

そしたら、コストコでなくても、それからナカシマじゃなくてもいいという考えになりますよね。そこに限定しなきゃいけなかった理由というのはないですよね。ということだけ私、確認しときたかったんです。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 友實市長。

○市長（友實武則君） ちょっと意味が分からないんですけど、都市計画を定めるのに、ここがコストコ、ここがナカシマだから決定されたということは、先ほども言いましたようにないです。この計画の中で、都市計画上必ず必要というものは交通拠点、具体的にはバスの結節点、それから案内機能である道の駅、そういったものがこの都市計画を定めるのに重要な要素として議論されております。

そのほかは、この土地をどういう利用形態にするか、それを用途地域もしくは立地適正化計画で定めていると、こういう状況です。

○委員長（金谷文則君） 分かりました。

だから、ほかの企業が来てもいいよ、それなのに、なぜ今の2社なのかっていうところの疑問が市民の中にあるということをお伝えしておきますし、私もそういうふうに思います。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 河本、岩田地区の開発につきましては、当初荒嶋市長が就任されたときに、長尾地区を産業集積地、そして河本、岩田地区を商業地域として開発をしようという計画を立てました。そのときに、私も一緒にそういうようなことをぜひしていただきたいということで、その計画に参加した議員の一人でもあったわけなんですね。

その中で、なかなか、要するに農業振興地域の解除ができないというようなことの中で、そこに道の駅をつくるということから、そういうふうな開発を進めていけば農業振興地域が解除されるんじゃないかなというような期待も持っておりましたが、なかなかそれができなかった。それが昨年12月20日にその区域が変更されたということは、これは友實市長の非常に大きな功績だろうというふうに思います。その中で、友實市長が就任されてから、河本、岩田地区の開発が内々で進んできておったということで、開発がされるのかなという期待も持っており

ましたけど、その期待の中に民民という言葉が出てきて、なかなか行政が主体になってその計画を進めておるといようなことではなかったんです。民民という話の中で、我々がその中に参画をさせていただけるというようなことが実はなかったんです。産業建設常任委員会においてもそのことについての説明がなされてなかったということが、今日になっているんな問題を起こしておる原因の一つに私はなってると思うんです。

それから、岩田地区においていろいろ住民説明会等々において、なかなか企業だけでは信用していただけないということの中で、私はなぜ、その中に行政が入って説明会に参加をしたのかということがいまだに私は理解できません。民民で業者が説明しておる中に、なぜ執行部がそれに加わったか、それを指示された市長がどういう考え方の中で参画をさせたのかということが、私はいまだに分かりません。そのことについて説明いただきたいと思います。

それから、民民で開発をしておる過程の中に、突然開発業者の名前が出てきたわけなんです。その開発をされる業者の選定に当たって入札もしてない。先ほどからいろいろ同僚議員のほうから疑問についていろんなことを発言されておられますけど、どういう形でそういう業者を選定されたのか。いろんな、友實市長のように、先ほどからお話が出ておりますように、私も耳にしておりますけど、いろんな今、話題になっております業者とのいきさつがどうもあったようなお話を聞かせていただいております。そういうことの中で、その辺をきちっと説明をしていただかなければ、我々も市民の方からいろんなことを聞かれても説明ができません。その疑問がだんだん重なって大きな疑問になっておるといのが現状ではないかなというふうに思います。

その辺のきちっとした説明を市長にはしていただきたいんですけど、先ほどからいろいろな説明をお聞きしておる中で、どうも市長の歯切れが悪い。市長の説明の仕方がなかなかきちっとした説明を、ああそうと納得できるような説明の仕方ができていないのではないかなというふうに思います。そういうことの中で、これから先どういふふうに進んでいくか分かりませんが、昨年9月に議会の中で予算が議決をされております。このことについては我々が議決しておる予算でございますので我々が口を挟むことはできません。そういうことの中で、いろんな疑問があるわけですけど、その予算が議決をされたということの中でいろんな疑問がそこで消されてしまいました。それは非常に私にとっては残念なことなんですけど、それはそれとして仕方がないことだろうというふうに思っております。

しかしながら、これからまだまだ進めていかなければならない事業がたくさんあります。そのことについては今後また説明いただかなければ、我々はその判断のしようがございませんけど、きちっとした説明をして、我々の納得できる委員会にしていいただきたいということを私はお願いしておきたいというふうに思います。

○委員長（金谷文則君） お答えをお願いします。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 友實市長。

○市長（友實武則君） まず説明会、この業者が主催の説明会に市が出席したっていうことについてですけども、これは説明会の中で、どうしても都市計画の手続がどういう状況になってるかっていうことを地権者の皆さんも随分気にされておりまして、都市計画の手続のその時点での現状を説明してほしいという求めに応じて、この手続についてのみを説明しに上がっております。この会社の民間としての説明、この場面では退席をして、都市計画の手続の状況だけを説明しに上がったということでございます。

それから、ベストコーポレーションの選定あるいは私とその会社の関係性についてのことでございますけども、先ほども言いましたように、私が岡山市の都市整備局の職員であったとき、具体的には平成22年頃だったと思いますけども、そこに大きな規模の開発の協議がありました。その開発の説明に来たのがこのベストコーポレーションだったと後に聞いておりますけども、そのときには、当時の市の都市計画の土地利用になじまないということで明確にお断りをしたという関係でございます。そういう関係なので、その会社とは、当時の関係はそれで終わってまして、後に再び会うこともありませんでした。その次にお会いしたのが、先ほども言いましたように、窓口として誘致を考えてくださっている企業が私の元に共にやってきたということがその次でございまして、その企業を赤磐市が公募とか入札で選定するという性質のものではないというふうに思っておりますので受け入れてきたということでございます。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） その業者を選定されるのに、行政が、業者が先に来られて話をしておくからその業者でいいという判断は、いいか悪いかの判断についてはこれ市長に権限があるわけなんで、そういう考え方が私はいいとは思えないんですけど、市長はそれでいいというふうに思われておるのでしょうか。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 当時を振り返っても、我々はコストコあるいはナカシマが、この方が窓口として役割を果たすということで来られたんで、それを入札するか公募するかという性質のもんじゃないと思うんですけども。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） いや、そこがどうしても理解できないんですね。我々は、その今言う、企業名を申し上げて申し訳ないんですけど、ベストコーポレーションというところの企業について、謄本とかいろいろ見せられて、その業者の内容については把握をさせていただいて

おります。そのことを、なぜ行政の長がそのことについて把握をして判断をされなかったかということが理解できないんです。ということは、市長とその業者とが何かあったんではないかなという疑いの念を持つのは当たり前じゃないでしょうかね。そのことについていかがでしょうか。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 先ほども言いましたが、該当する企業がこの会社を我々に紹介してきて、窓口として働いてもらうということです。その依頼をした側の会社も大手の会社です。そういった調査もするのが普通だと思いますし、大丈夫なんですよって言ったら大丈夫だっていうことです。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） それは市長、その発言は私は削除されたほうがいいと思うんですけど、今まで何をやるにおいても、行政としてどういうことを基本的に考えた中で、業者選定あるいは入札においてもそういうことを考えられた中でやられておるんじゃないんですかね。要は業者の言いなりになって、その業者の言うことを全て信用してやるということは、全くこれは間違っておると私は思いますけど、いかがでしょうか。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 何度も言いますが、これは企業の窓口として役割を果たすということでやってこられました。これがほかの民間の開発でも同じように、その開発者の委託を受けたコンサルタント等が窓口でやってきて協議をしたりするのを普通に行ってます。そういう役割として相手側が選定してこられた企業ということで、この企業がどうこうということは、市のほうとしては考えにくいと思ってます。

○委員長（金谷文則君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） これ委員会なんでもいろいろ詳細なこともお聞きしておるんですけど、先ほど市長が説明されたことについては当委員会においては、私は個人的には納得は一切できません。そういうことの中で業者選定をされておられたということについては非常に私は納得できるようなものではございませんということをはっきり申し上げておきます。

○委員長（金谷文則君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 私をはっきり申し上げておきますけれども、この業者を選定したのは私どもじゃなく、進出を検討する企業が窓口として選定されてここに来られたということで

ざいますので、選択する権限は市のほうにはなかったということを申し上げておきます。

○委員長（金谷文則君）　ありがとうございました。

佐藤委員、よろしいか。ちょっとごめんなさい。

市長ね、言ってるのは、幾ら向こうが言われても、その業者がどんな業者かっていうのはチェックをされるのが普通じゃないかなっていうのがみんなの素朴な疑問なんです。市長のほうは、じゃあ変な話、誰かが紹介したら、ひょっとしたらその人があまり誰から見てもオーケーだって言われない企業だったかもしれないというようなことがあったときにも、勧められたんだからそれでいきましょうっていうような話に僕はならないと思うんです。普通なら、市長だって職員に、あの会社はどんな会社だったって調べるだろうし、知らない会社、1回しか会ったことがないような会社でしょう。だったら調べるじゃないですか、普通。どんな会社かなって。それを今佐藤委員言われてて、調べずに何でも、じゃあ相手が言ったんだからいい、それは変な話、どこかの国の手先がいて、今の北朝鮮の話になって、これは差別かどうか分からんけど、何か仕組まれたスパイが入ってきてるようなことだってよくいろんなことでありますけど、それでもはいオーケー、何のチェックもなしにやるんですかって、拡大解釈したら私はそうだと思うんですよ。だから、チェックをされてないんですか。

友實市長。

○市長（友實武則君）　財務状況あるいはその会社の概要、これは伺っておりまして、それが決していいものであると言うには届かないと思います。しかしながら、不動産関係の方々や、そういったところにも聞くと、財務状況を取り除いて考えると、土地を取りまとめたりするのを真面目にやっているということは聞いておりました。

○委員長（金谷文則君）　で、評価されとったということですよ。

○市長（友實武則君）　はい。

○委員長（金谷文則君）　分かりました。

佐藤委員、よろしいですか。

○委員（佐藤武文君）　いや、私はもう。

○委員（治徳義明君）　委員長。

○委員長（金谷文則君）　治徳委員。

○委員（治徳義明君）　ただいまのベストコーポレーションの窓口の話、ある程度理解できたんですけども、確認なんですけど、コストコといえば世界の大企業です。そういったところが、今の説明でも地元のよく分かってる企業の窓口でという話なんだろうと思うんですけども、そのときに物すごくインパクトのある企業進出の話ですんで、36か所、今コストコ、日本に進出されて、そういったことが通常で、ほかの36か所がどのような状況だったんかというのは、そういったことは調べられたんかどうか、ちょっと確認です。

○委員長（金谷文則君）　答弁を求めます。

友實市長。

○市長（友實武則君） 全部を調べてはないです。

例えば、具体的に名前出してもいいのかな、北陸のほうの店舗の、そのときにはもう開業してたところがあるんですけど、そこの市長に、全国市長会議のときにちょっと時間を取ってもらってお話を伺いました。

そこは、北陸ですから、地域の核となるということから、コストコに随分営業をかけた。市長自ら。そして、そこはある工場が立地するという予定だった土地に、その企業が撤退を表明し、土地が宙に浮いた状態で、その土地をそこの市が譲り受けてもらって、その土地を無償でコストコに提供した。それによって、これがそこの市が大きな発展を遂げる一助になったと、そこの市長はおっしゃってました。そこまでやって誘致をしたんだなというようなことをそのときに認識しました。

その市はその市の事情がありますでしょうから、同じことを赤磐市ができる条件はないなと思いつながら、相手の関心が高まるようにということで、私ができることは、赤磐市のメリットを、そういった財政支援とかそういうことではなく、抱える経済人口だとか交通の利便性だとか、そういったものを強く訴えかけることで、会社の方針がじわりじわりと変わってきたということをしていただいたということです。

○委員長（金谷文則君） 治徳委員、よろしいでしょうか。

治徳委員。

○委員（治徳義明君） ちょっと分かりにくかったんですけど、要は世界の大企業が、市長の説明である程度僕も理解できるんですけど、岡山の企業がよく分かってる企業の窓口になるということは、通常レベルのやり方だと理解をされたということなんでしょうか。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 友實市長。

○市長（友實武則君） ちょっと違ってまして、通常よくあるパターンでは、最初から何らかの形でコンサルなりが入って協議をする。あるいはどちらかというと進出企業に進出の意向があつてスタートする話です。そこに窓口となるコンサルなりゼネコンなりが仲介して協議します。

ところが、赤磐市の場合は、コストコも治徳委員おっしゃるように世界企業です。赤磐市に出店の意向というのはほぼほぼゼロだったわけです。ですから、最初には、やはり1対1の協議からスタートしてます。間に何らかの企業が入るという形ではありません。何年か経過した後には相手企業がこちらに興味を示し、もうちょっと言いますと、前向きに検討を始めた時点で様々都市計画の手続のスケジュールはどうなってるかとか、その内容はどういう予定なのかとか、そういったことを情報交換しないといけない場面もあります。そこで、やはり川崎市と岡山県じゃあ、会うにしても頻度が希薄になります。そういったことから、情報を伝達するのに

素早くできるようにということで窓口を置いてくれというお願いをした結果でございます。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。

市長、治徳委員がもう少し言いそびれたのは、実は産業建設常任委員会で視察に東近江市へ行くと、地元の優良企業がその役割を果たしてやって、そういう会社じゃないとできるわけないです。よって議会のこの議論の中で言われたというのも一つあって、どういう企業がいいんでしょうかっていう意味合いが僕はあったと思うんです。それが一つなんです。それで、今のベストコーポレーションはどうなのかなって、世界の企業だからってということもあって聞かれてる部分があると思います。

それで、この議論をやってて、まず入り口でこんなずっとしてるので、皆さんが理解できたような雰囲気は、治徳委員はある程度理解できたというお話があるんですが、ほかの方はもう少し今のところで疑問点があるというふうに認識をしてるということで、今日の委員会の質問の全ても多分やり切れないので、大まかな疑問点についてはちょっとお聞きをしたということで次に進みたいと思うんですけど、どうですか。

○副委員長（福木京子君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 福木副委員長。

○副委員長（福木京子君） いろいろ、今コストコやナカシマに固執するあれじゃなくて、その都市計画が進んできとるというのもあって、それでこの選挙でいろいろお聞きして、やっぱりあそこの地域というのは本当に浸水地域と、それから交通渋滞が大変だと。今でも桜が丘のあの道路、実は土曜日の午前中にちょっとあの辺りで私も皆さんと一緒に宣伝したりしてるんで、朝の10時頃から。ほしたら、下市の交差点からずっと沼田の辺まで渋滞なんです。

それから、日常的にも相当の車が行き来すると。増えたと。多分、岡山美作道路の関係もあるかと思いますが。現にもう交通渋滞が発生している中で、やっぱりコストコの大型が来るとさらに道もできてない中での交通渋滞の不安、それから浸水地域の全然、今資料を出されとるもんで納得できるもんじゃないと。

そういう状況の中で、実は何か情報がありましたけど、コストコは何か兵庫県のたつの市が誘致に積極的らしいですね。それで既に誘致の区域の整備もちゃんと終わって、それからここは浸水のリスクもなく、赤磐市より物すごく条件がいいというようなこともちょっとお聞きしてます。ほんで、たつの市は実際、岡山市から45キロメートルぐらいですから、山陽自動車道で35分ぐらいで行けるようなところらしいですね。そういう意味では、近くにそういう既に積極的なところがあるというような情報も得ました。

今、赤磐市の場合は本当、市民から聞いたら不安だらけ、今の段階で。将来を見越してももうちょっと、今の段階で財政状況がどのくらいになるかというのも出てないというような状況では考えられたほうがいいんじゃないかなというふうな声も結構大きいものがあるんですが、それについてはいかがですか。

○委員長（金谷文則君） 財政状況のことについてと渋滞の緩和のことについての2つですね。

○副委員長（福木京子君） はい。

○委員長（金谷文則君） いかがでしょうか。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 財政状況というのは、赤磐市の財政状況のことを指してるんですか。

○委員長（金谷文則君） 福木副委員長。

○副委員長（福木京子君） コストコやこういうものを誘致するためには、これからは道路が要るでしょう、市道をもっと向こうのインターのほうへ延ばすんでしょう。それから、民民でやるっていうんですけども、上下水道、そういうインフラ、そういうものも今後要るでしょう。だから、あそこへ来る企業のためや道の駅や、そういう全体の工事をするに当たって、どのぐらい全体として、その関連の財政がかかるかというようなことぐらいは出されないといけないと思うんです。この赤磐市の財政の中で。それはもう、いろいろ要求がいっぱいある中で、まちづくり、住みやすい町をつくろうとみんなが思ってるわけですよ。だから、全体の町が、やっぱり快適な住みよい町にしないといけないわけですよ。それなのに、今は新拠点構想に相当のお金をつぎ込もうという、そういう方向に行ってるわけで、それはちょっと心配なんじゃないという声が多数になってきてると。

だから、そういう意味では納得できる資料がまだ今の段階で提出されてない。そういう中で、それに賛成していったらなし崩し的に行ってしまったら大変になる。何のためにこのような赤磐市の自然があって、静かなこういう住宅地にわざわざ選んで来たのかということが問われるというような声をたくさんお聞きしておりますので。いかがでしょうか。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 友實市長。

○市長（友實武則君） これから必要となる事業費及びその財源や、それから得られる税収増とかのメリット、そういった意味ですか。

○委員長（金谷文則君） そういう意味じゃないでしょう。全然違うでしょう。

理解できないですか。

○市長（友實武則君） ちょっとうまくつかめてないです。

○委員長（金谷文則君） 簡単に、じゃあ言うてください。

○副委員長（福木京子君） だから、あそこを開発するに当たっては、これから、今は多分10億円ぐらいの予算が出たんですが、そんなもんじゃないでしょう。道路も造らないけん、インフラ整備もせないけん、それから土地も埋めないといけない、そんなの全体からしたらどの

ぐらい費用がかかるんかというようなことが明らかになってない。少しずつなし崩し的に進めようというふうなことでは、不安でしょうがないじゃないですか。じゃから、全体の財源が、あそこを開発するに当たっては将来的にどのぐらいかかるんかという将来の展望、そういうふうなことを示していただかないと納得できない。分かりますか。

○委員長（金谷文則君） 分かりますか。

○市長（友實武則君） はい。

○委員長（金谷文則君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 確認の意味です。

その新拠点のゾーンの中……。

○委員長（金谷文則君） 中だけじゃないって。

○市長（友實武則君） それと周辺ということで、岩田長尾線の道路、立川、長尾の地域の道路の建設費、それから道の駅等の事業費、こういった意味ですか。

○副委員長（福木京子君） だから、民民ですと言われてる上下水道やインフラ関係、この辺も多分市がするんじゃないでしょうかね。今市道までするというて言うてるんですもの。だから、そういうなのが、本当に市費は要らないのかどうか。

○委員長（金谷文則君） 今言われてるのは、あの事業をすることによって関連して、例えば渋滞が起きたらほかに道をつけないと、今は評価としては渋滞が起きないって言われてるのはコストコが来るとかなんとかというのは加味しないで渋滞はありませんよっていう説明を今までされてきてるけど、来るんだったらそれは当然それを加味して評価しますっていうのがこの間の話だったと思うんで、それをしたときに、じゃあ渋滞をするから緩和するためには道が要りますよ。そしたら道をするのには、土地を買ったり工事をしたり、そういうふうなもんが出てくるんじゃないでしょうか。それに合わせていろんなインフラ整備で上下水道の話も出てくるんじゃないですかと。民間は民間でそれはすればいいんですけど、そこまでの仕事をアクセスするところまでは市がやらなきゃいけない。道路もつくっていかなくちゃいけない。渋滞対策もしなくちゃいけない。まちづくりをしていかなくちゃいけない。それから、ここをやることだけじゃなくて、全体これから先、ほかの赤坂や吉井のところもまちづくりをしてやっていかなくちゃいけないと相当お金がかかるけど、ここでどういうふうな計画、お金がこれからかかっていて、どうやってその借金をしたら返済をしていくのかっていうようなことまで含めて、きちんとしたお金のことの説明がまだなされてないから心配ですよっていう、大まかにはそういう話です。まだ示されてないでしょう。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 友實市長。

○市長（友實武則君） まず、今分かってるところを言いますと、本日資料として補正予算の内容の内訳を図面に落として提出させていただいておりますが、これが一つの目安になろうか

と思います。現在、この道路の関係、ゾーン、それからゾーンの外の一部、そういったものを図示させていただいておりまして、これまで補正予算等で予算づけをいただいた内容がここに書かれています。

それから、これに加えることの、今おっしゃった上下水道あるいは岩田長尾線の南の部分、こういったものが加わってまいります。それと、あと道の駅の部分、これが加わると言えば加わってきます。そういう状況で、この図にない部分については概算しか申し上げることができませんので、それが幾らあるかという、ちょっと把握が難しいんですけども、この岩田長尾線について、これも用地の買収あるいは路体の構成等は十分進んでおりますので、ここから先に必要となるものは、将来の赤磐市の財政を揺るがすような事業費ではないというふうに申し上げます。国庫補助事業も受けられることですので、御理解いただければと思います。

さらに、このゾーンの中についても、今のここに上げられているもののほかと言いますと、やっぱりインフラ関係では上下水道、そういうものが必要になってきます。

道の駅の公共ゾーンについては、これは今サウンディング調査等をやっておりますので、その結果でどういった規模でどういったものをつくっていくかを明確に定めてからじゃないと事業費は算出できないということを御理解ください。

○委員長（金谷文則君） みんなが求めていることと違う……。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 確認をちょっとさせてください。

ベストコーポレーションという業者が、市道の工事をすることができるとですか。要するに、市道を開発者によって工事をさすというようなことのお話があったと思うんですけど、ということはベストコーポレーションがその市道の工事を施工することができるのかどうかということの一つ確認させていただきたいんです。

それから、もう一点確認をさせていただきたいのは、岩田長尾線の道路について、公共ゾーンのへりの、今道路工事をしておる道路については、道の駅をするためにどうしてもこの市道が必要なんだというようなお話を私は聞いておったと思うんですけど、道の駅のためにこの岩田長尾線の道路をしなければならないというようなことを聞かされておったと私は認識しておるんですけど、今になって、これが要するにコストコの進入道路にどうも市長は考えておられるような発言が多々あるんです。そういうような発言は私は記憶にないんですけど、いつそういうようなことになったのかということについて、ちょっと説明していただきたいと思います。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 友實市長。

○市長（友實武則君） この岩田長尾線が、進出してくる企業のためというふうにおっしゃいましたけども、何度も言いますが、この岩田長尾線はこの新拠点ゾーンの中の土地利用を促進するために必要不可欠な道路という位置づけでありまして、これが公共ゾーンもその大きな目的の一つですし、ここに立地する企業にとってもこの道路は重要という位置づけで進んできております。道路は、これ専用道路じゃありませんので、いろんな方に使っていただく、そういう性質で、この道路がなければこの公共ゾーンも有効なものにはなりません。そういったことで、この道路は位置づけられております。よろしくお願いします。

それから、ベストコーポレーションがこの市道の道路工事ができるのかっていう御質問ですけども、これは造成も含めてですけど建設会社に請け負っていただくっていう形になるんだと思っています。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） いやいや、それおかしいんじゃないですか。開発業者がその工事をするというのを市長は明言をされておられるんですね。開発業者ということは建設業者ではないと思うんですけど、ベストコーポレーションは工事ができる業者なのか、できない業者なのかということは、先ほどの説明ではできないという業者に該当するんじゃないかと思うんです。そういうような業者が開発するという行為が、これから先できるのかどうかということをお伺いしたいんですけど、いかがでしょうか。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

友實市長。

○市長（友實武則君） ベストコーポレーションが建設業法の登録があるかというのと、ないと思います。したがって、建設業法の登録のある資格を有する企業に請け負っていただくという形で施工するということだと考えます。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） それが法的手続に違法性がないとはっきり言えるんでしょうか。どうも、私もいろんな方からいろいろなことを言われておるんですけど、そういうようなことが許されるのかどうかということについて、市長にお伺いさせていただきたいと思います。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 特に違法性はないものと思っています。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。

○委員（佐藤武文君） ないんですね。

○委員長（金谷文則君） 問題ないということです。

12時になったんで、ちょっとトイレ休憩を5分ぐらい取りましょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） それじゃあ、12時5分まで休憩したいと思います。

午後0時0分 休憩

午後0時5分 再開

○委員長（金谷文則君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

引き続き、皆さん御質疑等ございませんか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） それでは、協議事項に入らせていただきたいと思います。

協議事項1番目、令和7年3月議会臨時会提出予定議案について執行部からの説明をお願いいたします。

○建設課長（福圓章浩君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 福圓建設課長。

○建設課長（福圓章浩君） それでは、令和7年3月議会臨時会提出予定議案について、建設課から説明をさせていただきます。

資料①をお願いいたします。

提出予定議案としましては、補正予算となりますが、さきの定例議会におきまして修正をいただいた8款2項3目道路新設改良費の繰越明許費の案件で、修正をいただいた1億4,095万6,000円のうち、既に契約をしている支出予定額7,950万7,000円について繰越しをお願いするものでございます。

その内訳としましては、赤色の路線になりますが、資料替わって資料⑤をお願いします。

資料⑤に定例でつけさせていただいている主要事業の一覧表の抜粋を載せておりますが、そのうちの番号1、市道岩田長尾線改良工事その7というものを既に発注しておりまして、その事業費1,822万3,000円から、既に支出をしております720万円を差し引いた支出予定額1,102万3,000円、それから同路線におきまして既に契約をしている土地購入費161万円と物件補償費2,799万1,000円というのが内訳となります。

それから、また資料①に戻っていただきまして、黄色の路線となりますが、こちらについて、先ほどの資料⑤の番号2になりますけれども、市道岩田長尾2号支線改良工事を既に発注しておりまして、その事業費6,388万3,000円から支出済額2,500万円を差し引いた支出予定額3,888万3,000円となりまして、先ほど申し上げた合計が今回お願いさせていただく7,950万7,000円の内訳となります。

繰越しの理由としましては、工事請負費では現地試験の結果、想定以下の地耐力であったことによるその対応、それから地元調整に不測の日数を要したためでございます。また、物件補

償につきましては、相手方の営業というものを考慮しまして、引渡し期日を延期する必要が生じたことによるものでございます。

続きまして、市道岩田長尾線及び支線の路線認定とまちづくりにおける位置付けについて、資料②をお願いいたします。

道路法の道路というものでございますが、一般交通の用に供する道と定められておりまして、不特定多数の用に供するものと解されます。市道岩田長尾線及び支線につきましては、このエリアを利用される不特定多数の用に供する道路であるため市道として認定すべきものと解釈をしております。

詳細については資料②に記載しておるとおりでございます。

続きまして、工事打切りによる損害賠償について、資料④をお願いいたします。

工事請負契約書の中の記載でございますが、工事の変更、契約の解除、受注者の損害賠償請求に関する記述がありまして、その内容は1から6までのとおりでございます。

損害賠償についての詳細でございますが、一番下の損害賠償の範囲にあるとおり、受注者は発注者側の一方的事情により工事請負契約を工事途中で解除された場合、これによる損害賠償を請求し得ることはもとより、工事完成により得られるべき利益をも損害として請求することができることとなっております。これによりまして、場合によっては請負額を上回る損害賠償となることも想定をされております。

建設課としては以上でございます。

○委員長（金谷文則君）　ありがとうございました。

執行部からの説明が終わりました。

ただいまの説明について質疑はございませんか。

○委員（佐藤武文君）　委員長。

○委員長（金谷文則君）　佐藤委員。

○委員（佐藤武文君）　ちょっと素朴な質問で大変申し訳ないんですけど、要するに令和6年度の補正予算の中に繰越明許費で1億4,000万円出て7,900万円ほど既に契約しておるという内容の今説明だったと思うんです。

だったら、今言うそれを引いた金額を繰越しされればよかったんじゃないかなと。じゃけえ、1億4,000万円の繰越明許費が出てきたから、我々議会としてはそれに対しての修正予算を提案をさせていただいたというようなことで、手続上間違っておったのは執行部の手違い、間違いであって、議会には瑕疵はなかったというふうに私は判断しておるんですけど、そのことについて間違いではないでしょうね。

○委員長（金谷文則君）　答弁を求めます。

○建設課長（福圓章浩君）　委員長。

○委員長（金谷文則君）　福圓建設課長。

○建設課長（福圓章浩君） さきの議会で繰越しのお願いをしておりました1億4,095万6,000円の中にはまだ未契約の部分というのがございます。それについては令和7年度に繰越しをさせていただいて執行のほう、その繰り越した先で契約をさせていただいて執行を、必要なお金ですので検討していましたが、既に契約しているものではございませんので支出予定額ではないと判断しまして、今回その部分については減額をして、本当に必要な、今契約をしてる部分だけを支出予定額として上げさせていただいています。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 先ほど、説明の中に賠償額の範囲というようなことで説明があったんですね。そのこととの関連性は、何が該当するのでしょうかね。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○建設課長（福圓章浩君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 福圓建設課長。

○建設課長（福圓章浩君） 繰越しができなかった場合におきまして、今発注している工事の2件につきまして、途中で打切り完了という形になる可能性が高くなりますので、その際にそういったことも想定されるということで御説明をさせていただきました。

以上でございます。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） いやいや、想定はされるということで、それが今言う賠償を求められるということにつながるということではないんですね。そういうこともあり得るということの説明だったのでしょうか。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○建設課長（福圓章浩君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 福圓課長。

○建設課長（福圓章浩君） 想定されるということで説明をさせていただきました。

以上でございます。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 要するに、我々が議会の中で1億4,000万円の修正をかけて、今説明をされた中で半分ぐらいが執行しておったということの中で、その半分会ほんならへずってくれというような話なんのでしょうか。そういう理解でよろしいんですか。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○建設課長（福圓章浩君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 福圓建設課長。

○建設課長（福圓章浩君） 前回お願いした1億4,000万円程度の金額のうち、既に契約している部分について精査して、契約している金額、7,950万7,000円だけの繰越しをお願いしたいというものでございます。

以上でございます。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。

○委員（佐藤武文君） はい。

○委員長（金谷文則君） 他にございませんか。

○副委員長（福木京子君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 福木副委員長。

○副委員長（福木京子君） ちょっとこの図で何か、うろちょろしてよく分からなかったんですが、7,950万7,000円の契約をしてるとするのはこの図で説明はあったんですけど、もう一回、ここが今何割ぐらい進んで、あとこれだけ残つとるとというような、もっと分かりやすい説明はないですかね。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○建設課長（福圓章浩君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 福圓建設課長。

○建設課長（福圓章浩君） 資料①で説明をさせていただきます。

今回繰越しをお願いする金額ですけれども、まず赤色の道路、赤枠のところになりますが、これの工事請負費については、先ほど申し上げた岩田長尾線改良工事その7になりますが、こちらについてが1,102万3,000円。こちらについての進捗ですけれども、現在2月末の状況でございますが、35%程度の進捗率となっております。

それから、土地購入費と物件補償につきましては、既に契約をしておりますが、相手方の業務の都合によりまして移転が間に合わないということで、その2つについては既に契約しておりますので、その赤字のところを今回お願いしたいと考えております。

それから、黄色の路線につきましてですが、これについては9月補正で議決いただいた金額のうち、これが先ほど申し上げた岩田長尾2号支線改良工事の工事費になりますが、こちらについて3,888万3,000円の繰越しをお願いするもので、こちらの進捗率は30%程度ということとなっております。

以上でございます。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。

先ほどのその2件の工事で、契約はしてます。土地は購入してます。何かの理由があって、それで工事が進みませんでしたと。何が問題で手続ができなかったのか。それがいつ頃あって、その見通しがいつつかなかったのか、ついたのか。当然、予算が前回の本会議のときに

上程されるまでにそれがはっきりしなかった。3月31日までに終わりそうにもないから載せましたっていう話だろうと思うんですけど、具体的にその辺のところの話を聞かせていただけますか。

それで、それまでに委員会があったにもかかわらず、なぜそのような話が、これはこういう形で繰越しをしていきたいんだっていう事前のきちっとした説明がなされないまま、なおかつ1億4,000万円も、落としてもしょうがないというようなものまで含めて繰越明許費へ上げてこられたのか。解せないんですけど、その辺の説明をお願いします。

○建設課長（福圓章浩君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 福圓建設課長。

○建設課長（福圓章浩君） 繰越しの理由でございます。工事発注後ですが、現地の地耐力、現地の土の状態を確認するのにサンプリングというか土を採取して、その土の状況確認をさせていただきましたが、想定していたよりは土質が悪くて、仮設の計画とかの見直しが必要になりました。その関係で、借地であるとか、そういったことの地元での対応というのが必要になったことにより遅れたと。その土質が悪かったのが分かったのが、12月に土を採取しております、1月末にその結果が出て、いろいろ検討させていただいたところでございます。

以上でございます。

○委員長（金谷文則君） それだけですか。

○建設課長（福圓章浩君） 委員会の説明につきましては、2月の委員会におきまして3月議会の……。

○委員長（金谷文則君） その話は聞いたよね。土質のことは。

○建設課長（福圓章浩君） そのことは説明をさせていただいております。

○委員長（金谷文則君） そうですか。説明はいただいてないということですね。何か土質が悪くてっていう話を私は聞いた覚えがあったんだけど、じゃあそれは空耳ですね、ごめんなさい。

○委員（佐藤武文君） 委員会ではない。

○委員長（金谷文則君） 分かりました。

それで当然延びるっちゃうのは分かってたわけですよ、工事ができないんだから。それはもう最初から、じゃあ繰越明許費、それは当然皆さんに説明をして納得がいくべきものですよ。できないんだからね、工事が。なぜ、ほかのところのものはどうしてですか。ほかの、1億4,000万円に積み上がったわけでしょう。

○建設課長（福圓章浩君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 福圓建設課長。

○建設課長（福圓章浩君） 1億4,000万円の積み上がった部分でございますが、今回7,950万7,000円と、前回お願いさせていただいた1億4,095万6,000円の差額でございますが、こちら

については未契約のものでございます。その未契約の状態で繰越しをさせていただいて、その繰り越した先、令和7年度において工事の契約をさせていただいて執行したいと考えていた部分でございます。

以上でございます。

○委員長（金谷文則君） それと、さっきその補償の問題とか訴訟の問題だとかってというような話になるわけですけど、山川建設のほうも、それからもう一か所のほうも、その土地の関係が、例えばN値がちゃんと規定まで行かなかったとか土質が悪かったっていう話なんだろうけど、どちらもその問題があったわけですか。

○建設課長（福圓章浩君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 福圓建設課長。

○建設課長（福圓章浩君） 今申し上げたのは岩田長尾2号支線のことでございます。そのほかにも、盛土工の不足土につきまして建設発生土、工事間流用で建設発生土を使用して盛土をする予定としておりましたが、搬出先の公共工事の工程の遅れが発生したことによりまして、盛土の搬入が遅れたことも起因しております。

以上でございます。

○委員長（金谷文則君） それはめどがついたんですか、全部。

○建設課長（福圓章浩君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 福圓建設課長。

○建設課長（福圓章浩君） 今まだ入ってきておりますけれども、予定としては全部盛れるだけの量の算用はできてます。

以上でございます。

○委員長（金谷文則君） いつ完成なんですか。

○建設課長（福圓章浩君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 福圓建設課長。

○建設課長（福圓章浩君） こちらについては、繰越しをさせていただければ令和7年6月30日には終わる予定と考えております。

以上でございます。

○委員長（金谷文則君） 他は、皆さんよろしいでしょうか。

○副委員長（福木京子君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 福木副委員長。

○副委員長（福木京子君） 繰越しの期限が令和8年3月31日となっておりますよね。この辺はどういう見通しなんですか。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○建設課長（福圓章浩君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 福圓建設課長。

○建設課長（福圓章浩君） 今回の工事につきましては令和８年３月31日までかかりませんが、前回９月で繰越しを承認していただいたものの中で、令和８年３月31日まで執行がかかる見込みのあるものがありますので、最終のものが工期として記載されております。

以上でございます。

○副委員長（福木京子君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 福木副委員長。

○副委員長（福木京子君） それは何ですか、もうちょっとかかりそうなのというのは。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○建設課長（福圓章浩君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 福圓建設課長。

○建設課長（福圓章浩君） 公共ゾーンの用地費につきましても９月議会で繰越しの承認をいただいておりますが、こちらについては令和７年度から用地買収に着手してまいりますので、地権者の交渉によっては令和８年３月31日になる見込みがありますので、そちらまで工期を設定させていただいております。

以上でございます。

○副委員長（福木京子君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 福木副委員長。

○副委員長（福木京子君） 土質が悪いというていうことなんですが、どういう状況なんですか。文化財とかそういう、あれやこうもないんですね。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○建設課長（福圓章浩君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 福圓建設課長。

○建設課長（福圓章浩君） 文化財の関係はございません。

土質が悪いということになりますので、表土を剥いで敷き鉄板とかをする必要が生じております。単純に鉄板を敷かないと重量物が乗らないような、重量物で通行できないような地盤だったことによりまして、敷き鉄板等の敷設等も、今予定しております。

以上でございます。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。

他はよろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） それでは、質疑がないようでございますので、以上で質疑を終了したいと思います。

以上で令和７年３月議会臨時会提出予定議案については終わります。

続きまして、協議事項２番目、その他に入ります。

その他で委員または執行部から何かありましたら発言をお願いいたします。

執行部はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） 委員の皆さん、いかがでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） ないようでございますので、以上をもちまして産業建設常任委員会を閉会といたします。

御苦労さまでございました。

午後０時28分 閉会